

土合小学校 学校だより



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和6年度 第7号

令和6年10月31日

さいたま市立土合小学校

学校行事からみた子どもたちの思考と行動

校長 白倉 秀樹

猛暑として始まった2学期当初から少しずつ気温が下がり、気が付けば秋の深まりを感じさせる11月となりました。10月を振り返ると、今年度も学校行事や地域行事が数多く行われました。10月12日の運動会では、多くの保護者の皆様、地域の皆様に御来校いただきました。私も本部席で子どもたちの様子を見守っていましたが、自分たちで考えて行動する姿や、高学年が低学年のサポートをする姿を見て感動しました。自分の考えに基づく行動は、ある意味とても難しいことです。時には失敗もありますし、責任が伴う場面もあります。子どもたち同士で相談しながら協力する姿やそれを見守りながらさりげなく子どもたちに支援する本校職員の姿を見て、今年度本校で取り組む教育実践が着実に成果を挙げていると実感しました。

10月22日には5年生の校外学習が、10月28日、29日には修学旅行が行われました。校外学習の機会は子どもたちにとって新鮮なものであり、とくに修学旅行は、人生においてわずかな機会しか経験できません。修学旅行に同行した際には、今年の土合小のリーダーとして活躍する6年生が、楽しんで活動する姿が印象的でした。

今、土合小学校だけでなく全国の公立学校の教育は、個別最適な学びや主体的な学び、協働的な学びの実践に取り組んでいます。学校行事や校外学習の場面でも、大枠は大人が考えますが、活動の主導権を子どもたちに委ね、その活動を支援することが重要視されます。子どもたちが自分で考え活動するために、知識だけでなく方法論や思考過程についても知って、経験する必要があります。

自分たちで考えて行動することを習慣化させることには準備も必要ですが、それに伴う指導も必要です。みなさんは「コーチング」という言葉を御存じですか。コーチングとはいかに教えないで考えさせ、自立させられるかというものであり、その真逆に位置するのが「ティーチング」です。コーチングは、現在の学習指導要領を具現化させるために最適な考え方であると私は認識しています。この考え方が本校の教職員をはじめ、全学年の子どもたちに伝わってほしいと思い、まずは自分ができなければと実践に取り組んでいるところです。

主なコーチングスキルには、オープンクエスチョン（YesかNoで答えられる質問ではなく、自分の考えを発言させる質問）やペーシング（あいづちや同じ言葉を繰り返したり、声の大きさやトーンを相手に合わせて変えたりして、相手から安心感、信頼感を得るコミュニケーションスキル）などがあります。

コーチングはスポーツの分野で盛んに行われており、教育の分野においても実践例が多く報告されています。コーチングを行うには子どもたちが答えを導くための時間が必要であり、指導者が「待つ」ことを求められます。時間に追われる日々を過ごす大人にとって、この「待つ」ことも重要視される時代になったのではないかと感じる今日この頃です。